

2020年3月7日

世界女性祈りの日

【午後のセミナー】

## 神様が喜んで住まわれる心

[砕かれた心と謙遜の美しさ]

メロディーメイソン

**Melody Mason**

リバイバルを祈り、天国に向けて準備するとき、どのような心を培うべきでしょうか？

イザヤ書 57:15 が答えを与えてくれます。

「いと高く、いと上なる者、とこしえに住む者、その名を聖となえられる者がこう言われる、『わたしは高く、聖なる所に住み、また心砕けて、へりくだる者と共に住み、へりくだる者の霊をいかし、砕ける者の心をいかす。』」

午後のワークショップで、メロディーは再び聖書に目を向け、

神が喜んで住まわれるような心を詳しく見ていきます。

神に最高の名誉をもたらすのは、謙遜の心、砕けた心、そして賛美の心です。

## 著者について

**メロディーメイトソン**（メロディアスエコーとしても知られています）は、イエスに情熱を注ぎ、人々がイエスと共に生き生きと歩く手助けすることに熱心です。彼女はベストセラーの本である『もっと求める大胆さ：答えられた祈りへの神聖な鍵』の著者であり、すでに10の言語で入手することができます。この国際女性ミニストリーの祈りの日シリーズで使用された資料の多くは、彼女の間もなく出版される新しい本『すべての言葉で生きる大胆さ：豊かな生活への神聖な鍵』から引用されました。

メロディーは現在、世界総会の祈りの一致における取り組みをコーディネートし、世界中にある教会のリバイバルおよび改革における構想の教材開発を支援しています。メロディーについては、ホープチャンネルの複数のプログラムと3ABNで紹介されており、彼女の証とセミナーはYouTubeの至る所で見ることができます。メロディーは執筆、ハイキング、自転車に乗ること、自然の中で時間を過ごすこと、そして可能な限り海外伝道でボランティアをすることが大好きです。彼女はメリーランド州シルバースプリングに住んでいます。

# 神様が喜んで住まわれる心

[砕かれた心と謙遜の美しさ]

\* 説教の聖句は口語訳から引用

どのような心に神様が喜んでご臨在されるか、考えたことはありますか？

聖書はこのように言っています。「いと高く、いと上なる者、とこしえに住む者、その名を聖となえられる者がこう言われる、『わたしは高く、聖なる所に住み、また心砕けて、へりくだる者と共に住み、へりくだる者の霊をいかし、砕ける者の心をいかず。』」（イザヤ書 57：15）

聖書の中には何か所も、神様がへりくだり砕ける者の心に喜んで住まれると書かれています。これは神様が私たちの泣いている姿を見たいからなのではないでしょうか？ いいえ！へりくだり心砕ける者こそが自分たちには救い主が必要だということを知っており、高慢でないゆえに学ぶことができるからなのです。

残念なことに、高慢な人たちは神に近づくことが難しいのです。

ある牧師は言いました、「高慢は耳を貸さない。すでに知っているから。」

他の人はこう書いています、「高慢とは、張本人以外すべての人を病気にする唯一の病気だ！」

さらに他の人はこう言っています、「高慢は罪の一酸化炭素だ。静かに少しずつ、気づかないうちにあなたを死に至らしめる。」

みなさんこの高慢に関する言葉に共感していることでしょう。あの人にこのメッセージを今聞かせてやりたい、なんて誰か他の人のことを思い浮かべている方もいらっしゃるかもしれません。ですが、このセミナーは誰か他の人に向けたものではありません。こ

のセミナーは、あなたと私に向けたものなのです！「神様の祝福を妨げるような高慢が私の心の中にもある？」と、私たちも自分自身に問いかける必要があります。

下記のキリストへの道からの引用文では物事をより現実的に捉え、どうしてこれが信仰生活において重要なのかをわかりやすく理解する手助けをしてくれます。

「けれども、人の目にどんなに小さく見える悪事でも、神の目に小さい罪というものはありません。人の判断はかたよって不完全なものですが、神はすべてをそのあるがままにお量りになります。例えば、大酒飲みは軽蔑されて、とても天国には行けないと言われますが、その反面、高慢、自己愛、貪欲などは責められず、見過ごしにされがちです。しかし神は、こうした罪を特に嫌われます。というのは、これは神のあわれみ深い品性に反し、墮落しない宇宙に満ちている無私の愛の精神に反するからです。何か大きな罪を犯した者は、みずから恥じ入り、卑しさを感じ、キリストの恵みの必要を感じますが、高慢な者は何の必要も感じないため、キリストに対して心を閉じてしまい、キリストが来て与えようとなさる無限の祝福を受けることができないのです。」（『キリストへの道』悔い改め）

私たちが今朝話したことを覚えていますか？「神のあわれみを要求しうる唯一の資格はわたしたしが非常に欠乏しているということである。」つまり、謙遜なときに必要に気づくことができるのなら、私たちにはまだ希望はあるのです！

もしあなたが、ちりまみれの霊的荒野に生きているように思えて、そこからどう出てくればいいのか分からなくて途方に暮れているなら、あなたは神様の御業がなされるのに最適な場所にいるのです！ 神様は枯れた骨と働かれることが大好きです。ちりと共に働くことも大好きです。

神様は私たちにこう語りかけられます、「わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである。」（ルカによる福音書5：32）もし私たちが自らが罪人であるということに気づくなら、私たちには希望があります。私たちは救いという贈り物を受けるに値するのです。

しかし、謙遜に戻ってみましょう！ 神様が私たちに謙遜の心を育てるように呼びかけられているのなら、日々の生活はどのようになるでしょうか。

『絶え間ないリバイバル：勝利の生活の秘訣』という本の中で、著者のノーマン・グラブは以下のように書いています：

「全てのクリスチヤンの関係というのは一方通行ではなく、双方向のものです。縦方向でもあり、横方向でもあります。例えば、キリストの信仰によって神のみに義でありながら、隣人たちに対して不義であり続けることはできないのです。」 Norman Grubb, *Continuous Revival: The Secret to Victorious Living*, p. 18, 19

このように表現することもできます。人を家になぞらえるとしましょう。家には屋根と壁があります。それと同様に、墮落した状態の人は罪の上に屋根があり、自分自身と神様とを隔てています。そしてまた、周囲の人々との間に壁もあります。しかし十字架の救いによって砕かれると、キリストへの信仰によって屋根が取り除かれるだけでなく、壁もバタンと倒れ、恵みによって救われた罪人という人間の真の状態が全ての人の前で明らかになります。

残念なことに、回心してもすぐにまた問題が起こります。これが絶え間ないリバイバルの障害物なのです。絶え間ないリバイバルというのは絶え間なく砕かれるということなのですが、これには二つあります。つまり屋根が取り除かれなければならないのと同様に、壁もずっと倒れていなければならないということです。しかし、人間にとって最も根深くそしてわかりにくい罪というのが、無意識なプライド、つまり自己肯定と自尊です。悔い改めと信仰によって神様と隔てる屋根を注意深く取り除いておきながら、気づかないうちに自分自身と兄弟姉妹との間に世間体という壁を徐々に築いてしまうのです。私たちは、クリスチヤン生活における成功を兄弟姉妹に知られることを恐れませんが、もし私たちが魂を勝ち得ているなら、グループを率いているなら、祈りが答えられた経験があるなら、聖書からいいアイデアを得たなら、兄弟姉妹にこれらのことを語ることを恐れませんが、なぜなら、それは少なからず彼らの影響のおかげだからです。

「家庭での不寛容やかんしゃく、職場での不正、冷淡さやその他の罪に対して、神様が対処されなければならないとしても、そういった欠陥に対する神様の忠実で恵み深いお取り扱いを兄弟姉妹にあかしすることは決して容易ではないのです。なぜでしょうか？それはプライドがあるからです。事實は、私たちは神様からだけでなく兄弟姉妹からも称賛されたいのです。それこそがまさに聖書がいうように人前で告白することをさまたげるものなのです（ヨハネ 12:42-43 参照）。」 Norman Grubb, *Continuous Revival: The Secret to Victorious Living*, p. 20-22

アンドリュー・ムレイは彼の著書『謙遜と完全に委ねること』の中で、「神の御前に私たちが謙遜であると考えるのは簡単である。しかし、他者に対して謙遜であるかどうか、神の御前で本当に謙遜であるかを証明する唯一の十分な証拠である。」と書いています。

エレン・ホワイトはこのように書いています。

「高慢な魂を謙遜のうちに屈服させようではありませんか。頑なな心を砕いていただくではありませんか。自己愛や自己憐憫、そして自己称揚の思いはもはや消え去ります。見て下さい、私たちの罪によって刺し貫かれた方を見て下さい。その方が、私たちを引き上げるために謙遜の道を一步、一步下っていかれるのを見て下さい。その方がご自分をもはやこれ以上ないほどに低くされたこと、そして罪によって墮落した我々を救うためになされたことの全てを見て下さい。ならば、どうして我々がこんなにも無関心で、こんなにも冷酷で、こんなにもよそよそしく、こんなにも高慢で、こんなにもうぬぼれていることができるのでしょうか？ 一体、私たちの誰がその模範に忠実に従っているのでしょうか？ 一体、私たちの誰が心の高ぶりに対する戦いを自ら始め、続けているのでしょうか？ 私たちの誰が、自らの心と生活にあらわされる行為の中から全く利己心がなくなってしまうまで利己心と真剣に格闘したのでしょうか？」（『教会への証』5巻 17,18 ページ 英文）

ある話をみなさんと分かち合わせてください！

## 謙遜な心

### コーリー・テン・ブームの証

家族と一緒に、第二次世界大戦におけるナチスのホロコーストから 800 人以上のユダヤ人の命を救ったコーリー・テン・ブームのことを聞いたことがあるのではないのでしょうか。オランダでひそかに活動した結果、コーリーは家族もろとも逮捕され、ラーフェンスブリュックという、ドイツ中で最も残酷だった収容所に送られました。ものすごい数の人々がここで亡くなったのです！

1944 年 12 月にコーリーが奇跡的に強制収容所から解放されたときには、彼女の近親者は既にみんな刑務所の中で亡くなっていました。しかしながら、古傷をなめたり無情な人になるのではなく、彼女は残りの人生を世界中を旅しながらイエス様の愛を伝えるために費やしました。

コーリーは彼女の情熱、優しい恵みの精神、そして謙遜ゆえに知られ、そして愛された人です。そして多くの人が彼女の証によってイエス様の元へと導かれました。そうはいっても、彼女もまたあなたや私のようにとても人間らしいのです。

あるとき旅の途中で、キューバで持たれた夕方の長い集会で座り続けるのに苦労したという話をコーリーは分かち合いました。彼女は神の愛についてのメッセージを語った後、残り二人の男性の非常に長い演説の間、演壇の上に座っていました。とても暑くてじめじめしていて、うっとうしい虫があちこちにおいて、そして遅い時刻になってきました。コーリーは疲れていて、最後の人が長い奨励をするころには彼女の忍耐ももう限界でした。

「誰もが家に帰りたくてたまらないのよ」と、彼女は心の中で不平をこぼしていました。「お願いだからもう誰も前に来ないで。ベッドに横になりたくてたまらないのよ」。

でも驚いたことに、たくさんの人たちが呼びかけに応じて前に行きはじめたのです。幾人かは目に涙を浮かべています。そのとき突然、コーリーは自分の心がどれだけ自己中心的であったか気づきました。その夜彼女は疲れていて、暑くて、うんざりしていたというそれだけの理由で、会場に集まった人たちが人生をイエス様に捧げないでほしいと願ったのでした。すぐに彼女は罪を神様に告白し、許しを求めました。そして立ち上がり、前にやってきた人たちと共に祈ったのです。

あくる日、ハバナの上流階級地区の教会で話してくれないかとコーリーは頼まれました。有名で裕福な人たちがたくさんいました。その朝彼女が教会に入ると、プログラムの小冊子を手渡されました。その中には美辞麗句を連ねたコーリーの紹介も含まれていました。そこにはこのように書いてありました。「コーリー・テン・ブームは世界中でとても有名な伝道者です。……彼女は福音という信念に完全に献身しており、疲れ知らずで、無私無欲です」。紹介文を読んだ彼女の心は沈みました。「主よ」彼女は祈りました。「もしこの人たちがコーリー・テン・ブームが本当はどんな人かを知ったら、きっと彼らは今朝の私の話に耳を貸さなくなるでしょう」。

「本当のコーリーがどんな人かについて彼らに話したらどうか」と聖霊が答えました。すぐにコーリーは反論しました。「ですが主よ、もし彼らに話して、もし彼らに拒絶されたらどうしたらよいのですか？」再び彼女は優しく、それでいて断固とした声を聞きました。「私に嘘を祝福することができるか？」

そこでその朝彼女は、聴衆につらい真実を打ち明けました。その結果、多くの人々の心が砕かれ、真のリバイバルの基礎が築かれたのでした。

本当に心が砕かれている状態ってどういうことだろう、とみなさん思案しているのではありませんか？ ある人は絶えず続く病的内省のことだと考えます。宗教的儀式のときに過度に感情的になることや、他の人が幸せそうにしているときに意気消沈することだと考える人もいます。また、来る年も来る年も他者からの罵りに黙って耐えることだと

考える人もいるでしょう。でも実際、砕かれるというのはこういうことではありません。現実には、多くの人は個人的な苦痛に耐え、さらに多くの人たちは大量の涙を流し、それでいて未だ本当の意味で砕かれる経験をしたことがないのです。

「本当に心が砕かれるというのは、自分の心、自分の生涯の本当の状態を神様のみ前に認めるライフスタイルを常に続けることです。自分について他者がどう考えているかではなく、神様がどのように私のことをご覧になっているか、それを認めることです。砕かれた心は自分の意思を封じ込めます。自分の意志を神様の意志に完全に屈服させるのです。どんな痛みや代償を伴ったとしても、単純に自我を神様の方向に従わせ、自分の意志を捧げ、抵抗せず、苛立たず、頑なにならず、『主よ、分かりました』と言うのです。」 Nancy Demoss, *Brokenness*, p. 44

今日の午後時間をとって、私たちが心が砕ける本当の経験ができるように、私たちの霊的に最も必要としていることに気づくことができるように助けてくださいと神様に祈りましょう。

祈りの時間の読み物は「謙遜の美しさ」です。

前もって忠告しておきますが、心が痛むので、これを読み進めるのは容易ではありません。神様の救いの恵みがあらゆる面で必要だと理解したために、初めてこれを読んだときは私の心は切り裂かれました。でも、だからこそこれを分かち合うのです。

「私たちは何度となく、欠点やあやまちを悔いてイエスの足もとに泣き伏すことでしょう。けれども、そのために失望してはなりません。……自分の力に信頼できなくなったとき、あがない主の力を信じ……」ましょう。（『キリストへの道』弟子としての証拠）

イエス様が私たちと共におられることを忘れないでください。そしてイエス様は私たちを十字架のふもとまで連れて行ってくださいます。そこがまさに身を置くべき場所なのです！

## 謙遜の美しさ

### 祈りの読み物

お祈りの時間の前に読む参考資料です。「謙遜の美しさ」を読み、小グループでディスカッションをしたり、気になった点を話し合っって祈りあったりするなど、それぞれの状況に合わせてお使いください。

## 謙遜の美しさ

[高慢と謙遜の比較]

### 比較

- 高慢で自我に満ちた人は、自分の善い行いだけに目を向けて、自分は救いに値すると思う。
- 謙遜で無私無欲の人は、キリストによる義によってのみ救いにあずかることができると知っている。

「わたしたちの行った義のわざによってではなく、ただ神のあわれみによって、再生の救いを受け、聖霊により新たにされて、わたしたちは救われたのである。」（テトスへの手紙 3：5）

- 高慢で自我に満ちた人は、どれだけ自分がよく知っているかを誇り自慢に思う。
- 謙遜で無私無欲の人は、まだまだ学ばなければならないことがあるという意識から謙虚になる。

「その時ダビデ王は、はいて主の前に座して言った、『主なる神よ、わたしがだれ、わたしの家が何であるので、あなたはこれまでわたしを導かれたのですか。』」（サムエル記下 7：18）

- 高慢で自我に満ちた人は、自分が周りの人たちのようでないことを神に感謝する。
- 謙遜で無私無欲の人は、「高慢」が世的な罪と同じくらい死に至らしめるものだと知っている。

「すべて心に高ぶる者は主に憎まれる、確かに、彼は罰を免れない。」（箴言 16：5）

- 高慢で自我に満ちた人は「私が間違ってた。許してくれる？」となかなか言えないので、心にわだかまりを抱えている。
- 謙遜で無私無欲の人はすぐに「ごめんなさい。仲直りしよう」ということが出来る。

「だから、祭壇に供え物をささげようとする場合、兄弟が自分に対して何かうらみをいだいていることを、そこで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に残しておき、まず行ってその兄弟と和解し、それから帰ってきて、供え物をささげることになさい。」（マタイによる福音書 5：23,24）

- 高慢で自我に満ちた人は他人の失敗や弱さばかりにとらわれ、彼らの砕けた心に心動かされない。
- 謙遜で無私無欲の人は己の弱さと素晴らしい霊的な必要を痛感し、心砕けた人々に対して思いやりがある。

「『キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世にきて下さった』という言葉は、確実で、そのまま受け入れるに足りるものである。わたしは、その罪人のかしらなのである。』（テモテへの第一の手紙 1：15）

- 高慢で自我に満ちた人は、たとえ自分が間違っていたとしても自分は正しいと証明し面子を保とうとする。
- 謙遜で無私無欲の人にとっては、他人の前で正しくあることよりも神様の御前に義であることの方が気がかりなので、たとえ自分が正しかったとしても「正しくある権利」を喜んで手放す。

「善をおこなって苦しむことは—それが神の御旨であれば—悪をおこなって苦しむよりも、まさっている。」（ペテロ第一の手紙3：17）

- 高慢で自我に満ちた人は、自分の空間、時間、評判を身勝手なまでにも守ろうとする。
- 謙遜で無私無欲の人は与える寛大な心を持っていて、神が空間、時間、評判を守ってくださるから不便でもかまわない。

「与えよ。そうすれば、自分にも与えられるであろう。人々はおし入れ、ゆすり入れ、あふれ出るまでに寮をよくして、あなたがたのふところに入れてくれるであろう。あなたがたの量るその量りで、自分にも量りかえされるであろうから。」（ルカによる福音書6：38）

- 高慢で自我に満ちた人は忙し過ぎて、自分に利益をもたらさないような「小さな人々」の存在に気づいたり、手を差し伸べたりしない。
- 謙遜で無私無欲の人は、常にイエスに仕えるように「最も小さい者」にさえも仕え、助けようと探し求めている。

「すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである』。」（マタイによる福音書25：40）

- 高慢で自我に満ちた人は評価され称賛されることを強く望み、昇進、トロフィー、賞を切望する。
- 謙遜で無私無欲の人は神の栄光が現れるように信心深くあることを強く望み、評価や称賛から身を退ける。

「主よ、栄光をわれらにではなく、われらにではなく、あなたのいつくしみと、まこととのゆえに、ただみ名にのみ帰してください。」（詩篇115：1）

- 高慢で自我に満ちた人はすぐに自分の肩書や功績を見せびらかして、自分は特別扱いを受けるに値すると考える。
- 謙遜で無私無欲の人は自分の肩書や功績について語る必要はなく、神に栄光を帰する限りは自分は注目されなくていいと考える。

「自分は真実だという人が多い、しかし、だれが忠信な人に会うであろうか。」（箴言 20：6）

- 高慢で自我に満ちた人は自分の人生や影響力を、自分を見せびらかすための舞台として利用する。
- 謙遜で無私無欲の人は神に与えられた影響力や舞台をキリストを賛美するために用いることを切望し、注意深くキリストのみが見えるようにする。

「彼は必ず栄え、わたしは衰える。」（ヨハネによる福音書 3：30）

- 高慢で自我に満ちた人になかなか他者に仕えたり従うことができず、権威ある人や指導者のことを批判したり不満を言ったりする傾向がある。
- 謙遜で無私無欲の人は、イエスのように地位や役職に関係なくすべての人に仕える。自分に利益をもたらさないような人のことも奮い起こし、謹んで権威のある人の支えとなることをも望む。

「あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである」。（マタイによる福音書 20：27,28）

- 高慢で自我に満ちた人は常に神に対してどれだけいいことをすることができるかについて考え、教会や伝道は自分なしに成立しないと考える。
- 謙遜で無私無欲の人は神無くしては自分は御国にとってなんの価値もないことを知っており、謹んで用いられようとする。

「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされる場所だからである。」（ピリピ人への手紙 2：13）

- 高慢で自我に満ちた人は、冷たく、他人と距離があり、頑固で、執念深く、近寄りがたいことがしばしばある。誤解が生じたときには、他の人が歩み寄ってくれるのを待つ。
- 謙遜で無私無欲の人は温かく、愛に溢れ、歓迎的で、寛大であり、頼み事をしやすい。そして必要があれば改めることを躊躇しない。

「すべての無慈悲、憤り、怒り、騒ぎ、そしり、また、いっさいの悪意を捨て去りなさい。互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい。」（エペソ人への手紙 4：31,32）

- 高慢で自我に満ちた人は、しばしば自分が非難されたときに保身にはしり、失敗や間違いを周りの人に知られたくないと思う。
- 謙遜で無私無欲の人は非難を謙遜な開いた心で受け止め、それによって成長しようと望む。自分の失敗を見られたからといって過剰に心配することはない。

「主は、愛する者を、戒められるからである、あたかも父がその愛する子を戒めるように。」（箴言 3：12）

- 高慢で自我に満ちた人は独りでやっていこうとしがちで、霊的な闘争や必要について周りの人と分かち合うことが難しい。
- 謙遜で無私無欲の人は周りの人々に対して喜んで心を開き、弱さを見せ、ありのままのままだいる。弱く見えることを気にせず、かえって自分の弱っているときに神の強さに栄光が帰するよう心から願う。

「ところが、主が言われた、『わたしの恵みはあなたがたに対して十分である。わたしの力の弱いところに完全にあらわれる』。」（コリント人への第二の手紙 12：9）

- 高慢で自我に満ちた人は神に罪を告白するとき、はっきりしない一般的なことを告白しがちである。「神様、私のすべての罪を許してください。」

- 謙遜で無私無欲の人は神に罪を告白するとき、いつでも具体的な罪を告白する。  
「神様、私の〇〇について許してください。」

「だから、互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互いのために祈りなさい。  
義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである。」（ヤコブの手紙5：16）

- 高慢で自我に満ちた人は尊敬されることばかりに気を取られ、しばしば見掛け倒しの独りよがりの生活をする。
- 謙遜で無私無欲の人にとっては神と共に義であることが重要なので、いかなる形でも偽善や二重生活を避ける。

「しかし主はサムエルに言われた、『顔かたちや身のたけを見てはならない。わたしはすでにその人を捨てた。わたしが見るところでは人とは異なる。人は外の顔かたちを見、主は心を見る』。」（サムエル記上16：7）

- 高慢で自我に満ちた人は他者と自分を比べ、自分こそが名誉や救いにあずかるに値すると考える。
- 謙遜で無私無欲の人は自らの真の罪深い状態を知っており、値しない人間が救いや名誉にあずかることができるように神が御子を遣わして下さったことを賛美する。

「しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。」（ローマ人への手紙5：8）

- 高慢で自我に満ちた人は自分は大丈夫だと考えるが、実のところ自分の心の真の状態に対して盲目なのである。
- 謙遜で無私無欲の人は絶え間なく「神様、罪人のわたしをおゆるしてください」という態度をとる。

「ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようとししないで、胸を打ちながら言った、『神様、罪人のわたしをおゆるしてください』と。」（ルカによる福音書 18：13）

- 高慢で自我に満ちた人は自分にはリバイバルは必要ないが、自分以外の人たちには必要だと考える。（実のところ、まさに今、この人たちは頭の中でこのリストを読むべき人のリストを作っているのです。）
- 謙遜で無私無欲の人はまず最初に自分には霊的なリバイバルが日ごとに必要であることを認めます。御霊が心に生活に注がれることの必要性をつねに感じています。

「あなたの民が、あなたによって喜びを得るため、われらを再び生かされないのですか。」（詩篇 85：6）

「主よ、わたしをあわれんでください。わたしはひねもすあなたに呼びわります。」（詩篇 86：3）

[午後のワークショップの間に今年何について集中的に祈るかについて、及び「謙遜の美しさ」について祈る時間をもってください。その後プログラムを終了します]

## まとめと結論：

枯れた骨に命をもたらすことのおできになる神様に仕えていることについて、主を賛美せよとすることが出来ますか？

私たちの仕える神様は心を変えることがおできになる方です。

「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け、あなたがたの肉から、石の心を除いて、肉の心を与える。」

（エゼキエル書 36：26）

私たちの仕える神様は高慢な心を謙遜の美しい心に変えることがおできになる方です！

もう一度…神様に私たちの塵をおゆだねしましょう。

今日の午後に学んだように、神様が臨在される場所は二つあります。一つは高く聖なる場所、そしてもう一つが砕けた深く悔い改めた心—謙遜の心です！

実は今日は触れなかったですが、もう一か所神様が喜んでご臨在なさる場所があります！

神様はみ名を賛美する人の心にも喜んでご臨在されます！

聖書は、神様がご自分の民の賛美の内に臨在されると言っています。

神を賛美いたしましょう。私たちに対する彼の優しい優しい慈しみを！

「しかしイスラエルのさんびの上に座しておられる  
あなたは聖なるおかたです。」（詩篇 22：3）

午後のプログラムを終わるにあたり、私たちの生活に必要な、そして敬虔であるために必要なものすべてを神様が与えて下さっていることについて、讚美しましょう。敵が悪意をもって計ったものを神様が良いことへと変えてくださることを讚美しましょう。

「神とわたしたちの主イエスとを知ることによって、恵みと平安とが、あなたがたに豊かに加わるように。いのちと信心とにかかわるすべてのことは、主イエスの神聖な力によって、わたしたちに与えられている。それは、ご自身の栄光と徳とによって、わたしたちを召されたかたを知る知識によるのである。また、それらのものによって、尊く、大いなる約束が、わたしたちに与えられている。それは、あなたがたが、世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるためである。」（ペテロ第二の手紙 1：2-4）

安息日の午後のセミナー終わり